



動植物・公園利用 部門

👑 グランプリ

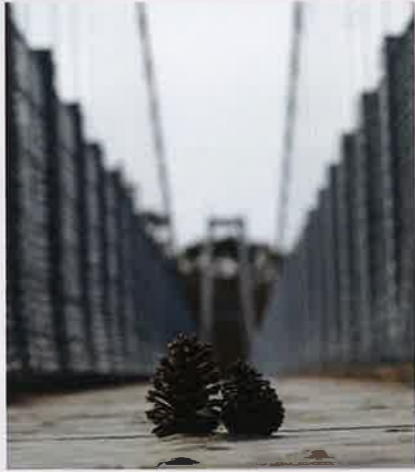


講評：階段を駆け下りる子どもたちの、弾ける笑い声が聞こえてくるようです。子どもたちの躍動感とともに、青空と森の鮮やかな紅葉がその明るさをより引き立てています。未来をつくる子どもたちがこの森で健やかに育っていることを感じさせてくれる秀作です。

「秋を楽しむ」木下 安雄 様

Twitterで魅力発信 部門

👑 グランプリ



講評：仲良く並ぶマツボックリが、恋人、親子、友人など、見る人にとって「大切な人」を想起させてくれる心温まる作品です。見上げの構図が、どこか希望を感じさせてくれます。この吊り橋は、人と人、また森と人をつなぐ架け橋となってくれるのでしょう。

「仲良し」佐田 恵利子様

👑 準グランプリ



「サンコウチョウいるかな？」
稲垣 貞光様



「雨上がりに咲く」
鈴木 久俊様

👑 準グランプリ



「娘と汗だくになりながら探検しました」
やぎ 様



「どんぐり大好き」
柴 様

受賞作品はHPでもご覧になれます



👑 優秀賞

動植物公園利用部門：氏原頌悟様、太田辰美様、加藤義昭様
Twitterで魅力発信部門：ろうも様、TanyTanTan たにしゅん様、Taka @高速道路 SAPA. 道の駅巡り様

👑 奨励賞

動植物公園利用部門：鈴木 洋明様、徳田英雄様、大橋雅信様、神谷利之様、高柳航太様
Twitterで魅力発信部門：山口耕司様、ルピナス様、にっば一様、村川里枝様、サンクス様

公園として初めての取り組み「静岡県立森林公園フォトコンテスト2018」が開催されました。応募総数 178 作品と多くのご応募がありました。誠にありがとうございました!

公園の魅力を写真や Twitter で表現した力作が揃うなか、厳選なる審査を行い、22 作品の入賞が決定しました。2019年2月17日にはビジターセンターにて授賞式が執り行われました。

ビジターセンター バードピア浜北

展示、自然情報の発信、自然体験型プログラムの提供などを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:00~16:30
- 休館日 毎週水曜(祝日の場合は翌日) 12/29~1/3
- 問合せ ☎053-583-0443

木工体験館

気軽に木工工作を楽しむことができます。キット作品でも、オリジナル作品でも。工具はそろっているので、手ぶらでどうぞ!

- 開館日 <行事開催日> 月・木・土 <一般開放日> 金・土・日
- 開館時間：9:00~16:30
- 初めて利用になる方は「初心者利用講習」受講が必要です。
- 問合せ ☎053-583-1559

夏鳥に
会おう!

静岡県立森林公園の森で

5月を迎える頃、森林公園の森は、夏の渡り鳥たちでにぎやかになりはじめます。今回は、姿も美しく、また独特のさえずりを森に響かせてくれる人気の3種を紹介いたします。

サンコウチョウ
Japanese Paradise Flycatcher

「さえずり」を
月日星
「しきんぼ」と聞きなし、
その三つの光から

サンコウチョウと呼ばれます。でも、実際に野外では、「ぢゅいぢゅい…」に続けて早口で「ほいほいほい」と聞こえます。



サンコウチョウ♀

青いくちばしとアイリング、紫がかった体の色がどこかエキゾチックな雰囲気を出すサンコウチョウ。東南アジアから渡ってきます。暗い森の中で尾羽をひらひらさせて飛ぶ姿は神秘的でもあります。長いものは30センチにもなりますが、尾羽が長いのはオスだけ。オスらしさをアピールしているのです。メスは短い尾羽です。

園内では、針葉樹が生え、小川の流れる「ラクウショウ谷」付近によく見かけます。

巣は、逆円錐型のカップ状でスギの皮やコケなどをクモの糸でかがってつくられています。フライングキャッチで小さな虫などをとらえ、夫婦で子育てします。真夏を迎える頃には、巣立った子供たちと一緒に一家で森の中を移動する姿に出くわすこともあります。

夏の終わりには長い尾羽は抜け、身軽になって東南アジアへ冬越しのため、帰っていきます。サンコウチョウは、県準絶滅危惧種に指定されています。

※ 聞きなし：鳥のさえずりなどを、人のことばに置き換えたもの。

人気の夏鳥を 声で探そう

キビタキ

Narcissus Flycatcher

「ジュンロー、

ジュンロー…」

軽快でリズムカルな声で、
高らかになわばりを
宣言します。



キビタキ♀



オスは、黄色と黒のツートンに白い斑紋がキリッと冴えるスタイリッシュな模様です。反対にメスは全体に褐色の地味な色をしています。フィリピン、インドシナ半島、ボルネオ島などから渡ってきます。

公園内では、コナラなどがしげる落葉広葉樹林でその声がよく聞かれます。

オオルリと違い、木のてっぺんではなく、真ん中あたりの枝にとまり、さえずります。ときおり枝から飛び出しては、フライングキャッチでえさとなる虫を捕らえ、再び枝に戻ります。

つがいごとに一定のなわばりを持ち、その範囲でえさをとり、子育てをしようと考えられています。なわばり意識が強く、オスどうしの戦いが見られることもしばしばです。

オオルリ

Blue-and-white Flycatcher

「ハイハイハイハイハイ……ジュンロー」

背の高い木のてっぺん付近から降り注ぐように聞こえる。

オオルリの「ハイハイ」。

その透明感のある美声は、

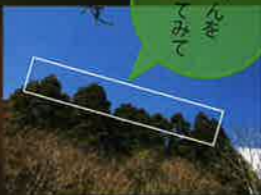
ウグイス、「コマドリ」とともに

「日本三鳴鳥」のひとつに

数えられています。



オオルリ♀



色彩の美を 楽しもう

空高くから声が聞こえてきたら、ぜひ、声がる方向の木々のてっぺん付近を見てみてください。どこかに「ジュンロー」とまじり、空に向かってさえずる姿が見られるかもしれません。白いおなかが目印です。

双眼鏡をお持ちならさらにじっくり見てください。頭から背中、尾羽にかけての、宝石のラピスラズリを思わせる深い青色にハツとする「こと」でしょう。「幸せの青い鳥」とでも呼びたくなるような美しさです。オオルリもまたメスはオスと違い、地味な褐色をしています。

オオルリは、インドシナ半島やフィリピンなどから海を渡ってやってきます。森林公園では、ラクウショウ谷やうぐいす谷などで見られます。岩場に巣をつくり、子育てをします。

夏鳥ってなに？

渡り鳥のうち、春から夏にかけ、子育てをするためにやってきて、秋には、越冬のため暖かい地域へ渡っていく鳥のこと。

森林公園では
ほかにも
こんな夏鳥が
見られます



ツバメ
人家に営巣するため、なじみ深い夏鳥。晩夏～秋にはヨシ原などに大群でねぐらをとる。



アマツバメ
ブーメランのような長い翼が特徴。高速で飛ぶ姿がかっこいい。岩の割れ目などに営巣する。



ホトトギス
「キョッキョツ、キョッキョ」と鳴きながら飛ぶ姿を見る。ウグイスなどに托卵する。



サシバ
カエルやヘビなどを獲る猛禽類。秋には群れて「タカ柱」をつくりながら、東南アジアへ帰る。



ハチクマ
夏にはクロスズメバチなどのジバチを好んで食べる猛禽類。飛ぶ姿は首がやや長めに見える。

野鳥観察のマナー

- 子育て中の鳥の巣には近づいてはいけません。鳥が危険を感じ、子育てを放棄してしまうことがあります。
- さえずりなどの音源を流したり、餌付けをしてはいけません。
- 植物を踏みつけるなど、環境を改変しないでください。
- 通行の邪魔にならないようにしてください。

鳥の生活を
おびやかさないよう
やさしい気持ちで
観察しましょう。

<参考資料>

「原色日本野鳥生息図鑑」中村登流・中村雅彦 著 保育社
「山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥」叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄 著 山と溪谷社
「日本鳥の巣園地」小海途銀次郎・和田岳 著 東海大学出版会

サンコウチョウ♀・オオルリ♀・キビタキ♀の写真：太田 辰美氏 撮影